

Daisy^{II} インビトロインキュベータ



- 全ての飼料について、精確な消化率研究が可能。
- 高い処理効率：最大100サンプルを同時処理可能。
- コストの削減：50%以上の人件費を削減可能。
- 手動分析時のバラつきを排除。
- 設置面積が小さく、貴重な実験スペースを節約。

Daisy^{II} インキュベータをお使いいただくことで、インビトロ乾物消化率(IVDMD)の研究を、より簡便かつ効率的に行うことが可能になります。お使いいただくユーザーの利便性を考え、Daisy^{II} インキュベータは、1回に最大100サンプルの消化を行えるよう設計されています。1サンプルに1つのフラスコ/試験管を使用する従来法と異なり、ルーメン内容物を、4つの消化ジャーに分けるだけで、消化試験が行えます。バッチ処理と濾過処理が不要となることにより、真(true)、推定(apparent)、および酵素的(enzymatic) 消化率の*in-vitro*分析を簡便にします。Daisy^{II} インキュベータは、コンピュータ制御されたチャンバー内で、一定の加温および攪拌を継続的に行います。39.5°C にプリセットされた温度設定は、様々な分析のニーズに応じ、変更することが可能です。分析には、F57フィルターバッグ、加熱シーラー、バッファー溶液を使用します。



米国ANKOM Technology (アノコム・テクノロジー)社は、フィルターバッグ技術の開発元です。

検体試料をバッグに封入することにより、取扱いを容易にし、ほぼ完全に分析ミスをなくします。また、操作する方が、化学薬品に触れることもありません。フィルターバッグをご利用になれば、自動化された装置内で試料をバッチ処理することにより、効率が格段に向上し、1日の処理可能試料数が、劇的に増加します。

- 精度の向上
- 精確な結果
- バッチ処理
- コスト削減
- 高い処理効率
- 省スペース

仕様

DAISY^{II} インビトロインキュベータ

動作仕様

試料重量: 0.25 g ~ 1.0 g

1バッチ毎の試料数: >100

装置仕様:

稼動温度: 39.5°C

(変更可能)

寸法 (幅 × 奥行 × 高さ): 44 x 47 x 64 cm

電源: 100V*, 50/60 Hz, 3A

*付属のトランス(100V 120V)使用

重量: 34 kg

使用フィルターバッグ: F57



米国ANKOM Technology社は、繊維および脂肪の分析において、世界中で利用されているフィルターバッグテクノロジー(FBT)の開発元です。ANKOMの製品は、85カ国以上にユーザーを持ち、その品質とイノベーションで高い評価を受けています。ANKOM社は、お客様のニーズに応えるため、常に時間のかかる分析方法を改善する技術/製品を、研究開発しています。三紳工業は、50年の研究機関向け機器製造・販売にて培った経験をもとにANKOM社製品の購入のご相談から、購入後のアフターケアまで、一貫したサービスを提供します。

ANKOM
TECHNOLOGY

ANKOM Technology
2052 O'Neil Rd.
Macedon, NY 14502

三紳工業株式会社
analyze more with SANSHIN.

〒223-0065
横浜市港北区高田東1-32-6
Tel: 045-531-7741 Fax: 045-531-9345
メール: info@sanshinkogyo.co.jp
Web: www.sanshinkogyo.co.jp